

前回 8 月 26 日の例会記録

出席の状況

会員数 55名 (内出席免除 3名) 出席者数 40名 欠席者数 15名

出席率 74.07% 前々回訂正 94.23%

欠席者 相原, 福島, 原, 堀川, 加戸, 梶谷, 川本, 菊井, 小橋, 永見, 大賀, 大饗, 竹本, 槌田,
(平野)

S . A . A .



氏房会員

IDMで楽しい時間をありがとうございました。参加料の代わりにスマイルします。



西岡会員

先週一週間北海道に行ってきました。仕事を忘れて、十分にリフレッシュしてきました。先週例会を休みましたのでスマイルします。



児島会員

先日は誕生日にお花を送って頂きありがとうございました。受け取った母親がその立派さに大変感激しておりました。受け取るのが母親から妻に変わる日がはたして来るのだろうかと思う今日この頃です。



末吉会員

週報にて間違いがございました。9月2日が月見夜間例会となっております、ガバナー公式訪問でございました。申し訳ございません。スマイルさせていただきます。

以上,4件 13,000円(累計 2,013,000円)

会長報告

会長 横山 俊彦

先週、糸島ガバナー補佐をお迎えしてのクラブ協議会に理事・役員を始め各委員長・新入会員が出席され誠意ある報告をしていただき誠にありがとうございました。早速、糸島ガバナー補佐より改善すべきところとして指導者育成プランに沿った勉強会をするよう指摘がございましたので取り入れて参りたいと考えております。

また、21日にIDMが開かれ多数のご参加を嬉しく思う反面年配の会員の出席が少なく残念とも感じました。たまには年配だけの「OLD IDM」を開いても良いかと思っていますので理事・役員会に上げますので宜しくお願い致します。



幹事報告

幹事 山田 喜広

1. 9月のロータリーレートは1ドル=100円です。
2. 岡山西南RCより、創立45周年記念事業の盲導犬啓蒙活動プロジェクトのご案内がございましたので回覧します。ご参加をご希望される方は添付のチラシでお申し込みください。
3. 今週の週報で記入誤りが有りました。最終頁の終わりに例会情報があり次週メニューを月見夜間例会になっております。訂正でガバナー公式訪問にて松花堂弁当となります。
4. 来月1日に会員増強・ロータリー財団合同セミナーが津山で開催されます。出席予定者は大饗委員長、高橋峯委員長、会長、幹事です。



例会プログラム

外部卓話

「素人集団が取り組んだ飛行機作り 『エアロMECIA ～夢への挑戦～』」

岡山県立水島工業高等学校 工業化学科 坪井 輝明 様

本校は4年前より誰もに取り組んでいない未知の技術に挑戦するエアロMECIAプロジェクトをスタート。その目的は①工業高校の技術の限界に挑戦、②新素材の活用技術の開発、③工業高校の在り方・活かし方の模索、という大きなもの。しかし素人集団が夢だけを追いかけてスタートしたプロジェクトは失敗の繰り返しで、専門家にアドバイスを請うと99%無理だからやめた方が良いと言われたが、あきらめずこつこつと問題を解決した。技術を身に付けた生徒は匠の卵となり、信頼関係も生まれた。およそ20の企業、関係機関からの協力とメンバーの決して諦めない粘り強さのおかげで、エアロMECIAはほぼ完成、笠岡ふれあい空港において完成披露と試験走行を行った。まもなく航空局より許可を得てジャンプ飛行を行う予定である。このプロジェクトを通して工業高校の技術の限界の1つを突破し、また生徒のそれぞれの個性を伸ばすことが出来たと感じている。「ものづくりは人づくり」の意味と、「夢を語ること」の大切さをかみしめることができた取組であった。



2013年8月25日に国際ロータリー第2690地区の米山記念奨学委員長研修会ならびに米山記念奨学生・学友親睦会が、岡山市のメルパルクにて開催されました。

研修会では、森本信一ガバナーの挨拶、次郎丸清志地区米山奨学会委員長の講話、グループ討議が行われました。グループ討議の共通のテーマとしては、①クラブの会員はどの程度「米山奨学事業」について理解しているか？ ②各クラブの「地区の寄付目標」の達成状況と、達成するための方法と課題？ ③会員の理解を深め、さらにステップ・アップするための施策？ であり、グループ毎に自由討議の後にリーダーが発表しました。

先輩ロータリアンの辛抱強い努力が、花咲いて実を結び種が育っていること、また、米山学友(元奨学生)と現役奨学生によって組織される学友会が、日本国内に31、海外にも台湾、韓国、中国、タイの4か国に設立されていると次郎丸委員長から説明がありました。

2009年3月に設立された中国学友会の初代会長姫軍(ジ・ジュン)さんの次のようなスピーチの一部が紹介されました。「我々学友が、日本を最も理解する中国人と言えなければ、我々より日本をもっと知る中国人はいない。中国人の中で、我々が日中友好を最も望んでいる人でなければ、我々より日中友好を望んでいる人はいない。中日関係の友好的な発展に寄与することが、我々の責任、使命です。」

研修会の後、米山記念奨学生・学友親睦会(岡山エリア)が開催されました。奨学生9名・学友11名、そして世話クラブのカウンセラー全員のスピーチがあり、当クラブからは楊圩(ヨウ・ウ)さんと、カウンセラーの岡本和夫会員が挨拶されました。

学友会会長代理で挨拶された何曉麗(カ・ギョウレイ)さん、講話をされた米山親善大使の楊小平さん、ネパール出身の学友アルチャナ・シュレスタ・ジョシさんをはじめ、奨学生、学友全員が米山奨学生である(あった)ことの意味について、美しい日本語で各人の思いがこもった挨拶をされ、参加者全員が感銘を受けました。

米山記念奨学生が一人もいないクラブもある中で、岡山北西ロータリークラブが楊圩さんの世話クラブになりましたこと、岡本和夫会員をはじめ皆様に心から感謝申し上げます。

2690地区の米山学友会については、森本ガバナーのHP(<http://www.rid2690.jp>)のTOPページにリンク先として表示されていますので、ご参照ください。

○「私にとってのロータリーモーメント」

小松原 隆代 会員

公務員の娘の私がロータリーを知ったのは、約40年前、学生時代の時です。

大学の女子寮生160名は、田舎の良家の子女が多く、イギリスに1年間留学の経験を持っていたり、お父様のお仕事で海外生活経験のある帰国子女でした。友人達は、ロータリークラブの交換留学生で留学経験し、お父様はロータリアンでいらっしゃいました。寮生の保護者には、経営者や議員さんが多かったので『ロータリークラブ』は学生時代からとても聴き慣れた言葉でした。ただ、学生ですから、その内容を知るはずもなく、しっかりとした理念をもって活動する奉仕団体と知ったのは、大人になってからの事です。

そして、17年前、まだ子供達が小さい頃、真鍋・市川両先生から、入会のお声掛けを頂いた時、「私のような者では。。。と申しあげながらも、少し下心が湧いてきました。

学生時代に、友人がロータリーの交換留学生でイギリスに行ったことを思い出したのです。おりしも、長男が在学中の中学から、イギリスのケンブリッジに短期留学して、留学にたいへん興味を持っていた時でした。『ロータリアンの方のお家でお世話になることが出来れば、普通の留学と違って、安心して留学させることが出来る』お兄ちゃんの留学経験で、下の子供3人もみんな「留学したい」と思っていましたので、心配症の私にとっては、これ以上のことはない!!と思いました。これが、初めて明かす『極めて不純極まりない私の入会理由』です。

結局、ロータリーで留学のお世話になることはありませんでしたが、子供達は皆、大学留学等を経て、無事に社会で人さまのお役に立らせて頂いています。学生の時に、ロータリアンを保護者に持つ友人との出逢いがなければ、先生方にご丁寧にお誘い頂いたのも、私がロータリーに入会させて頂くことはなかったと思いますし、子供達の留学の夢も、夢で終わっていたと思います。

私がロータリーに入れて頂くことで、考えてもいなかった可能性を見出すことが出来、子供の留学について、前向きに考えるようになったことは、我家にとって、とても有意義なことだったと思っています。

最後になりますが、ロータリーに入って17年間、色々な経験の中で、一番強く感じることは、他の会合の出席や、仕事で他県に行った時に、ふとしたきっかけで、お互いにロータリアンであることが解ると、一気に打ち解けて、とても早く仲良くなれる良さです。会合においても、仕事においても、これは、たいへん有意なことであり、十分に活かすべきことだと感じています。

クラブ情報

寄稿文 「赤石岳・悪沢岳登山記」(平成25年 8月10日～14日)

岡本 和夫 会員

大井川は駿河、遠江の国境をなしており、全長168km、中流域で蛇行しながら駿河湾に注いでいる。静岡県域で北に角のように突き出ている所が源流部で、3000m級の山々に囲まれ、深く峻い谷を形成している。アクセスしにくい地域ということもあり、何となく敬遠していた。お盆休暇を多めにとり、荒川三山と赤石岳へ登ることにした。

正午過ぎ妻と二人で車で出発。草津SAで久しぶりに山行を共にする弟が合流し、静岡駅で次男が加わった。夕食を摂りながら登山コースの選定を行い、反時計回りで三泊四日と決定した。日もとっぷり暮れたなか、安倍川とその支流を廻り井川ダムへ、さらに大井川を廻り、畑薙第二ダムから第一ダム近くの駐車場にやっとの思いで到着した。深夜11時をかなりまわっていた。駐車場の空きスペースに TENT を二張り設置し眠りについた。

翌11日は6時40分発の東海フォレスト(株)運営のバスで出発した。今年は降水量が地域によりかなり偏っているが全国的にみれば少雨で、畑薙湖は貯水量がなく細い水流を形成している状態であった。1時間余りで登山基地の樫島(1123m)に到着した。樫島を中心とした静岡県の北に突出している地域は、大倉財閥を創始した大倉喜八郎(1837～1928)が明治28年、徳川家の家臣であった酒井家から購入し、現在グループの特等東海製紙(株)の社有林となっている。大倉氏自身も89歳の時、駕籠に乘ったり背負われたりして赤石岳へ登頂したという。その時のルートは大倉尾根としてその名が残っている。8時ちょうど大倉氏を祀った神社の脇から出発した。二軒小屋へ通じる滝見橋のたもとで左に入り、奥西河内に架かる短い吊り橋を渡って尾根にとりついた。ここからは尾根道を進み、小石下(1586m)から林道を横切って1時間10分で清水平(1877m)に到

着した。水の補給を済ませさらに歩くこと40分、12時40分に蔵段(2073m)に到着し昼食を摂った。ここから10分ほどで見晴岩(2141m)に辿り着き、はじめて荒川三山や赤石岳が望めた。なおも尾根道を疲れた足取りで進み、駒鳥池を右に見たあと、道は左へ大きく向きを変えジグザグの登りをしのごとお花畑のなかにひょこりと宿の千枚小屋(2613m)が現れた。15時25分であった。初日は標高差1490m、約7時間の行程であった。

12日朝、山梨県境の白根山系の向こうに大きく富士山が見え、5時5分富士山の北からご来光を迎えた。どの登山でも暁闇から日の出の頃の山上でのひとときが至福の時間である。6時25分小屋を出発、お花畑のなかをジグザグに登り二軒小屋への道を分け、さらに急な登りをしのご1時間で千枚岳(2880m)頂上に達した。真っ先に塩見岳が目に飛び込んできた。それから間ノ岳へ続く山稜、また塩見岳から右手前に尾根伝いに蝙蝠岳、徳右衛門岳が続いている。小休憩ののち千枚岳頂上から西の荒川三山をめざした。急直下の岩稜部を2ヶ所慎重に下り、コルからゆるやかに登って丸山(3023m)に達した。名前の如く丸くゆったりとした山容であった。ここから赤黒い大岩の重なる岩稜帯を抜け荒川三山主峰の悪沢岳(東岳、3141m)に到着した。9時30分であった。360度の眺望が開け、はるか遠くに鳳凰山地蔵岳のオベリスクまで、南アルプスのあらゆる山が見渡せる眺めであった。1時間余り眺めを楽しんだあと中岳へ向かった。コルへは滑りやすい急な道を下り、尾根道を登り返した。左のカルには黄色いお花畑が広がり、短い夏に彩りを添えている。避難小屋の先に中岳頂上(3083m)はあった。11時50分であった。昼食を摂りながら、塩見岳から中岳に続く稜線、さらに赤石岳、聖岳を主とした南西方面の眺めを楽しんだ。西の前岳へ続くコルでザックをデポし前岳(3068m)へ向かった。頂上の西は鋭く切れ落ち大崩落地となっている。再びコルに戻り、今夜の宿の荒川小屋へ向かいザレた道を下った。前岳の南斜面は南アルプス最大のお花畑となっており、シナノキンバイ、ヤツガタケタンポポ、黒ユリなどが咲き誇っていた。近年ニホンシカの食害が目立ち、フェンスで囲み保護していた。お花畑の中をジグザグに下り、水場を過ぎてダケカンパの樹林帯の平らな道をゆるやかに下って荒川小屋(2605m)に到着した。14時15分であった。二日目は約8時間の行程であった。小屋は左に荒川三山と千枚岳、右上方に大聖寺平から小赤石岳の肩を見上げるロケーションにあった。

3日目も朝から快晴で、東に大きく富士山が5合目より上を雲海上に出していた。5時40分出発。樹林帯の中の急登をしのご、大聖寺平に向かって緩やかに登って行った。大聖寺平(2714m)は長野県人鹿村小渋川へ下る分岐点でもあり、のんびりとした馬ノ背状で小休憩をとった。ここから小赤石岳の肩へは見上げるほどの高低差があり、ジグザグに標高差316mを1時間かけて登った。南には小赤石岳、少し下った向こうに赤石岳の山頂部がどっしりと構えており、頂上での眺望に期待に胸が膨らんだ。小赤石岳(3081m)を下って赤石小屋への道を分け、待ちに待った赤石岳(3120m)の頂上に立った。9時ちょうどであった。頂上から北へは塩見、仙丈、甲斐駒、間ノ岳、手前に昨日踏破した荒川三山、千枚、西から北西方面にははるか遠くに恵那山から御嶽、空木、木曽駒、さらに乗鞍、焼、穂高、槍をはじめとした北アルプスの主峰が雲上に望めた。また南方面には大沢、中盛丸山、兎、聖、奥聖、上河内と中部山岳帯の山のほとんどが見えると言っても決して誇張ではない、それほど素晴らしい眺めである。深田久弥は『私の記憶にあるあらゆる頂上のなかで、赤石岳のそれほど立派なものはない』と述べている。小屋でのテレビニュースでは、連日猛暑、酷暑が続いているという。猛暑を避け、天空で至福のひとときを過ごすことができ、健康と家族に感謝した。弟と次男は斥候として昼食時には前線に進んでくれ、早めに昼食の準備をしてくれた。3日目は赤石小屋に宿泊予定であったが、現在9時過ぎということ、小屋泊まりに少々飽いたことなどの理由から、思い切って樫島まで下山することに決定した。但しバスの最終出発時間は14時でかなり無理な計画であった。再び分岐点まで戻り、北沢カールの急斜面のお花畑の中を底部まで下り、さらに2769m峰の直下を巻くように登っていった。危険箇所にはロープやアルミ製の栈道があり慎重に越えていった。11時5分富士見平に到着し、今回の山行のおさらいをするかのように周りの山をひとつひとつ目に焼き付けていった。比較的急な尾根道を下ってようやく赤石小屋に達した。11時50分であった。軽く昼食をすませ、12時20分小屋を出発した。ガイド本によると樫島まで4時間15分かかるといふ。バスは断念しロッジ泊まりとした。大倉尾根(東尾根)を辛抱に下ること3時間余り、最後の標高差約400mの急坂を足がへとへとになりながら、やっとの思いで樫島に到着した。15時35分であった。妻は次男に励まされながら1時間遅れで到着した。最終日は登りが515m、下りが1997m、約10時間の行程であった。ロッジでは素泊まりとし、入浴後今回の山行の楽しさや難行苦行の数々を振り返った。

14日は6時30分発のバスで駐車場に向かった。井川以北は人煙なく、車や大井川鉄道を利用して静岡に出るにもかなりの時間を要す地域にも茶畑は広がっていたが、今後益々過疎に拍車がかかっていくことだろう。静岡市内で登呂遺跡と駿河湾、久能山を垣間見、滋養のある昼食を摂り栄養を補給した。次男と車で別れ、目立った渋滞もないなか草津SAまで戻り、三男と5ヶ月ぶりに再会し近況を語り合った。そして20時に帰宅した。



9月お祝い行事

例会情報

本日のメニュー(9月2日) ガバナー公式訪問(夜間例会) 松花堂弁当

次のメニュー(9月9日(ヘルシー和食))

丼物 鰻柳川丼(牛蒡 玉葱 黄韭 玉子 刻み葱 粉山椒) 小鉢 法蓮草お浸しとろろ掛け(ちらしイクラ) 赤出汁 香物(三種)